



はじめに

## 「いばらきの未来」創造に挑む

一般財団法人 常陽地域研究センター

理事長 鈴木祥順

一般財団法人常陽地域研究センターは平成31年3月末に設立50周年を迎えると同時に、常陽産業研究所との統合によりその歴史に幕を閉じます。「JOYO ARC」最終号を読者皆様にお届けするに当たり、長年にわたり当センターの活動を支えてくださった多くの皆様に、改めまして深く感謝を申し上げます。

当センターの機関誌「JOYO ARC」は、前身である「ニュー茨城」の昭和44年8月創刊号から本最終号まで実に590号が発刊され、読者皆様に地域動向の研究調査をベースに地域づくりに役立つ情報を提供してまいりました。

最終号前編となる前号では当センター50年の歳月を省みしました。地域と取り巻く環境の変貌の大きさに改めて驚かされ、そして、機関誌を通して見る当センター活動の足跡に、いかに変化の潮流を読み取り、よい地域づくりにつなげていくか、時代の要請に果敢に挑み将来展望を拓いてきた先人・諸先輩の労苦を思い、敬意と感慨を新たにしました。

機関誌上には、共同調査や取材を通して、またご寄稿いただく形で、たいへん大勢の各界の有識者の方々に登壇いただき、そのご見識・ご洞察を広く読者にご紹介することができました。産官学民の橋渡しを担うという地域情報誌の役割を果たすことができましたこと、これらご協力をいただいた皆様のご尽力、そして長年にわたる行政、企業、教育機関、県民の皆様のご強いご支援の賜物と、幾重にも御礼を申し上げます。

そして最終号後編となる本号では、「いばらきの未来」をメインテーマといたしました。未来の地域をどうデザインし地域の新たな価値創造に取り組んでいくか、このテーマは当センターの調査研究の基底をなす研究員全員の想い・問題意識でもありました。

振り返れば、時代の推移とともに、当センターの扱う調査テーマ・調査活動の在り方も大きく変遷してまいりました。地域社会の成熟化とともに地域の課題は重層化・複雑化し、今までの経験則に拠るだけでは対応が難しくなり、答えのないところに答えを見出す力、すなわち地域の新たな価値を見出していく創造力・デザイン力が問われるようになりました。人口減少社会の到来、人生百年時代を迎え、とりわけ、働きがいや生きがいといった地域を担う「人」の問題が、これからの地域づくりに不可欠な視座となってきました。

多様な価値観のもと未来のあるべき姿をいかに具現化してゆくか、さらに広い視野からの分析・提言が要請され、新たな地域の価値創造に向けた産官学民の知の結集が、今、一段と強く意識される所となっております。

このような問題意識に立脚し、本号では「いばらきの未来」を担う若者の学生論文集、各分野でご活躍の識者の方々からの論考集を持ちまして、当センター調査研究の総まとめといたしました。本号で提示された各分野の課題・提言が、新体制で再スタートする当センターの「いばらきの未来」創造への道標となることを念じまして、また読者皆様の少しでもお役に立てますことを願ひまして、本最終号をお届けいたします。

当センターの事業は常陽産業研究所に引き継がれ、4月より統合再スタートいたします。新体制においてシンクタンク機能をさらに強め、産官学民連携のもと調査研究や提言を含め幅広く活動し、これからも全力を傾けて「いばらきの未来」創造に挑戦してまいります。このためには各界の暖かいご理解は申し上げるまでもなく、皆様の倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。